



「高尾っ子の心を見つめる教育週間」への参加、ありがとうございました。特に土曜日授業には、多くの保護者や地域の方々に参観いただき大変うれしかったです。ホームページに少しですが土曜日の取組を載せていますのでご覧ください。

さて、教育週間の始まりに子供たちに行った話を紹介します。

(前略)

先生が朝から挨拶や掃除をしたり、教室に行ったりすると、友達から心を傷つけられたことを、悲しそうに話をする人がいます。人の心にけがをさせるのは「いじめ」です。

・言葉のいじめ

「きらい」「うざい」「死ね」「ばか」などの悪口を言うこと、言葉の暴力はいじめです。

・暴力のいじめ

友達をたたいたり、けったりするのはいじめ。遊ぶふりをして、ふざけてたたいたりけったりすることもいじめです。

・いやがらせのいじめ

机やノート、靴箱など友達の持ち物に「落書き」することはいじめです。友達の靴や鉛筆などをかくす、友達のものをこわす、よごすなども嫌がらせのいじめです。

・からかいのいじめ

失敗した人や人と違うことをしていること、体の特徴やその人の家族の事などを笑ってからかうのもいじめです。笑顔が大好きだけど、からかいの笑顔が一番嫌いです。

・無視や仲間外しのいじめ

「〇〇さんと話すのやめよう」「向こうに逃げよう」一人ぼっちにさせたり、その人が来たら急に話すのをやめたりするなど、無視や仲間外しもいじめです。

・命令のいじめ

友達に「〇〇しろ」と命令して「できなかったら友達やめるぞ」など強く求めることはいじめです。

友達が持っている消しゴムや鉛筆などの文房具などを「ちょうだい」としつこく何度も言ったり

「お菓子をおごって」など求めるのもいじめになります。

・ネットを使ったいじめ

タブレットやスマホで友達の悪口を書いて広げたり、友達になりすまして勝手にうその情報を広げたりすることもいじめです。

ライン外しなどもいじめになります。

いじめは人の心に大きなけがをさせてしまいます。

だから絶対にしてはいけません。

周りに心のけがをしている人はいませんか？ どうすれば心のけがを治すことができるでしょうか？ 考えてみてください。

さて、今日はもう1つ話をさせてください。「いのち」の話をします。

「命は みたいなもの」

皆さんだったら、ここに何を入れますか？

ここにこんな言葉を入れた一人の女の子がいます。

宮越 由貴奈(みやこし ゆきな)さん ”命は電池みたいなもの”

由貴奈さんはどんな子なのか？

ゆきなさんのお母さんの言葉を紹介します。

『(略)』

宮越由貴奈さんは小児がんのため、長野県安曇野市にある県立こども病院に長く入院していました。病院の中に「院内学級」と呼ばれる教室があり、理科で電池の勉強をしたときに「命」という詩を書きました。それを紹介します。

(略)

皆さん、どうですか？私はこの詩から、「自分の命も、友達の名も大切にしよう。病気でも頑張ろう」という、ゆきなさんの強い思いが伝わってくるように感じます。

今日から土曜授業までの1週間は高尾っ子の心を見つめる教育週間です。いじめのこともいのちのこともいつも考えておく大切なことではありますが、この1週間は友達や先生、おうちの方と一緒に考えてほしいです。

前半に「いじめ」後半に「いのち」について話をしました。私は話が上手ではないのですが、子どもたちはこれまで以上に真剣に聞いてくれました。そのことがうれしかったです。

学校生活を送る子どもたちには、いじめに該当する言動をしてしまったり、受けたり、命に関わる間違いをおかす場面がよくあります。それらを「自律と共生」に向けた学びの場とするためには、我々大人の対応力が問われます。子どもたちの将来、健全育成のために保護者の皆様とも連携した取組を意識していきます。

高尾小学校 校長 三好 崇裕